

道院だより

No.10

金剛禅総本山少林寺 埼玉北浦和道院

2009年 9月8日(火) 発行

文責 道院長代務 梶谷憲皇

合掌

子供たちにとっては、長く楽しい夏休みが終わり、保護者にとっては、うるさい子供が学校に行ってくれるようになってホッとしている、そんな今日この頃ではないでしょうか。一般の方も、お盆休みと夏合宿という道院の大きな行事が終わって、ちょっと、一区切りついたところだと思います。

「やってみせ、言ってみせて、やらせてみて、ほめてやらねば、人は動かぬ(動かない)」

先日練習の時に、そんな話をし、実際に、練習の中に取り入れながらやってみました。この言葉は、知っている方も多いかもしれませんが、戦前の日本海軍連合艦隊司令長官だった「山本五十六」の言葉です。山本五十六は、戦時中は、大変人望のあった軍人で、日本の真珠湾攻撃を指揮した中心人物ですが、アメリカとの戦争には最後まで反対していたそうですね。日本の国力では、到底アメリカにはかなわないと訴え続けていた人です。結局は開戦し、悲惨な戦争が、世界的に広がっていくわけですが。

本題に入りましょう。

「やってみせ」とは、まずお手本を見せるということです。次に「言ってみせて」。つまり、方法ややり方を説明し理解させるということです。そして、実際に「やらせてみる」。やらせてみて、やらせた方は、なにかしらの評価をします。その時に、ただ、悪いところを批判してばかりいてはいけなく、良いところをしっかりと認め、評価してあげる。そうしないと、「人は動かない」ということです。もちろん、よくないところ、直さなければならぬところまで、何でもかんでもほめていけばいいということではありません。やはり、課題を指摘してあげることは必要です。しかし、人間多くの場合、褒められるとやはりうれしいですね。うれしいし、やる気にもなります。やる気になって取り組んでいくと、技術は向上していくものです。いつも怒られてばかりでは、自分に自信を無くし、教えてくれている指導者に対して、信頼感を失い、結局は、離れていってしまうということになるのではないのでしょうか。ただ、指導者によっては、怒ったり、批判したりすることが多い人もいます。しかし、優れた指導者は、やはりポイント、ポイントで、的確な指導と、同時に良いところを必ず褒めているはず。だから、信頼関係が生まれ、指導される方はやる気になり、技能も伸びていくのだと思います。

練習の時にやってみました。

2人組の練習は、多くの場合、先輩後輩のペアになるようにします。その時に、この話をし、やってみました。

① **まず、見本を先輩が見せる。**

② **気をつける点や、技のポイントを説明する。**

③ **後輩にやらせてみる。**

④ **先輩は、後輩の良かったところを褒め、課題となることについて、また、手本を見せ、やらせる…**

を繰り返しました。しかし、拳士のみならずは気づいたと思いますが、少林寺拳法の修練方法は、本来こうした方法をとっています。山本五十六の人を育てるノウハウは、実践されていたのですね。ただ、こういう方法をとっているということを意識すると、さらに効果的だと思います。

少林寺拳法は「社会のリーダーを育てる“道”」であり、「人のために行動できる人を育てる“道”」です。こうした修練を通して、リーダーとしての資質を身につけさせ、人との関わりの中で、人に対しての優しさを養っていくことが大切なのであり、少林寺拳法は、まさに、そういう人づくりの“道”なのです。

少林寺拳法のこの素晴らしい教えと教育システムに自信を持ち、また、修練に励んでいきましょう。

結手

連絡事項

① 練習場所の変更について

常盤小学校の学校行事の都合で体育館が使用できない日があり、練習場所を下の通り変更します。ご確認ください。

9月18日（金） 大戸公民館 ホール

② 練習の休みについて

9月22日（火）はシルバーウィークで、練習はお休みです。

③ ホームページについて

「少林寺拳法 埼玉北浦和道院」のホームページがあります。一瀬先生に管理してもらっています。練習場所の変更や、行事についても随時更新していますので、そちらでもご確認ください。まだ、ホームページを見たことのない方は、「**少林寺拳法 埼玉北浦和道院**」で「検索」してみてください。また、携帯用のホームページもありますので、そちらも検索してみてください。

④ 昇級試験について

10月に昇級試験を予定しています。科目表で、技や試験内容を確認しておいてください。また、宿題は9月中に提出できるようにしておいてください。